

教員養成課程における心理教育プログラム（その2）

— オンライン集中学習会での取り組み —

Psychoeducational Programs by University Students in a Teacher Training Course

— Practical Report in Summer Intensive Learning (2) —

次世代教育学部教育経営学科

赤松久美子

AKAMATSU, Kumiko

Department of Management for Education

Faculty of Education for Future Generations

次世代教育学部教育経営学科

浅田栄里子

ASADA, Eriko

Department of Management for Education

Faculty of Education for Future Generations

次世代教育学部教育経営学科

高橋 直樹

TAKAHASHI, Naoki

Department of Management for Education

Faculty of Education for Future Generations

要旨：本稿は、環太平洋大学次世代教育学部教育経営学科の教育心理コースにおけるオンラインでの取り組みの成果と課題について考察することを目的とした。昨年度から設けられた「教育心理コース」では、子どもの心理的ケアの専門的知識・技能を身に付けられる体験活動を重視したプログラムのもとで学習を進めている。2020年度の前期は、新型コロナの感染拡大のため、オンラインでの学習を余儀なくされたが、オンラインならではの良い面も感じられた。今後「遠隔心理支援」が求められる風潮を踏まえると、オンラインで授業の体験は、学生にとって、遠隔心理支援のスキル伸長に寄与したと考えられる。

キーワード：オンライン授業、教育現場に役立つ心理支援、遠隔心理支援

I. はじめに

教育現場では不登校やいじめ、暴力行為などの学校不適応が社会問題となっている。

2020年度の「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」（文部科学省初等中等教育局児童生徒課，2020）によると、小・中学校における不登校児童生徒数は181,272人（前年度164,528人）であり、不登校児童生徒の割合は1.9%（前年度1.7%）で、高等学校における不登校生徒数は50,100人（前年度52,723人）であり、不登校生徒の割合は1.6%（前年度1.6%）であった。児童生徒数は減少しているにもかかわらず、不登校児童生徒数は前年度より上昇している。また、小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめの認知件数は612,496件（前年度543,933件）と前年

度より68,563件増加しており、いじめ防止対策推進法第28条第1項に規定する重大事態の発生件数は723件（前年度602件）と増加している。小・中・高等学校における暴力行為の発生件数は78,787件（前年度72,940件）であり、児童生徒1,000人当たりの発生件数は6.1件（前年度5.5件）である。

これらの、子どもを取り巻く諸問題への対応として数多くの研究がなされ心理教育の導入が広まりつつある。心理教育とは、「個人の生支援・心理状態についての心理学的知識の獲得、精神、心理的または対人関係上の問題解決スキルの獲得を通して、現在および将来における問題の解決に役立つことを『目的』として、学級内すべての児童生徒、および彼らを取り巻く重要な他者を『対象』とする、実証的心理学を『原理』においた、個別ではなく集団、または環境調整的

な『アプローチ』を中心とした、主として教育実践者を施行者とする教育活動」(市橋, 1999)と定義されている。

石隈(2012)は、問題を抱えた児童生徒に対する個別的な援助の土台となる一次的援助サービスの必要性を述べている。一次的援助サービスとは、すべての子どもを対象とした発達促進的・予防的援助を指す。

学校では、予防開発的な支援が求められており、教員養成課程の学生として、ソーシャルスキルトレーニングやストレス・マネジメント教育などの知識を持ち、子どもたちに実践できる力を培うことが必要である。

そこで、本学の次世代教育学部教育経営学科では、従来から「子どもに寄り添える教師」の養成を目指してきたが、昨年度から「教育心理コース」を設けて、子どもの心理的ケアの専門的知識・技能を身に付けられる体験活動を重視したプログラムのもとで学習を進めている。「不登校・いじめ・発達に関する事柄等、子どもを取り巻く問題への理解を深める」「子どもや保護者に対応できるカウンセリング技法を身につける」「セルフマネジメント力をつけ、つながる力を養成する」ことを目標に、昨年度は、下記のようなプログラムを実施した。

1. 週1回の本学教員による授業(交流分析)
2. 夏季集中学習会(外部講師を招き、2泊3日の合宿を実施。アンガーマネジメント、ピア・サポート、ストレス・マネジメント、グループ・エンカウンター、SWとの座談会など)
3. 冬季集中学習会(外部講師を招き、2日間の集中学習会を実施。不登校児童生徒への支援、特別支援教育・発達障害など)

杉本、青山、飯田、遠藤(2017)は、心理教育の現状と課題を考察して、スキルトレーニング系の心理教育において頻度と有効度の相関関係が高かったとしている。そのため、今年度の本コースの夏期講座として、「アンガーマネジメント(怒り・衝動のコントロール)」と「傾聴スキルトレーニング」を取り上げることとした。

しかし、今年度は4月当初から、新型コロナの感染拡大のため、大学の授業がオンラインとなり、教育心理コースの活動もオンラインでの実施となった。大学生を対象とした心理教育プログラムに関する先行研究としては、太田(2006)による「教職課程科目を効果的に学習するための心理教育プログラムの開発」など、既に多くの大学における取り組みが発表されてい

るが、コロナ禍におけるオンライン授業の取り組みに関する実践として、本報告は意義があるものと考えられる。

Ⅱ. 研究の目的

本研究では、学生たちがめざす教員像を明確にし、子どもへの理解を深めるために有効な「心理教育プログラム」について検証し、子どもの心に寄り添える教員を養成するプログラム作成の可能性を探っていく。特に今年度前期の取り組みがオンラインでの実施であったことから、オンラインでの授業を振り返ること、その成果と課題を探りたい。

Ⅲ. 研究の方法

本稿では、2020年6月～8月に実施したオンラインでの取り組みを紹介し、その成果や課題について報告する。すべてGoogle Meetで実施した。

Ⅳ. 実践内容

1. オンラインお茶会

目的 (1) 新入生に教育心理コースの紹介をする。(2) 大学へ通学できない新入生に先輩や同級生との交流の場を提供する。(3) 2, 3年生は、昨年度学習したピア・サポートの実践の場とする。

方法 1年生の基礎ゼミで各Google Classroomに案内(図1)を掲示し、参加希望者は、教育心理コースのGoogle Classroomに招待した。参加者にはあらかじめスプレッドシートに自己紹介を記入させた。

参加者 (延べ数) 1年生14名 2, 3年生19名

期日 2020年7月15日(水) 15:30~16:20, 24日(金) 15:30~16:20, 28日(火) 13:30~14:30

プログラム

- (1) 先輩からの自己紹介とコース紹介(10分)
- (2) 昨年度の活動について(10分)
- (3) 1年生自己紹介+質問+困っていること...(15分)
- (4) 先輩からの回答(10分)
- (5) 担当者から(5分)
- (6) 個別相談(小部屋に分かれて少人数での話合い)

新入生へのコースの紹介を兼ねて、「オンラインでお茶会」と銘打った会を実施した。図1の案内を作成し、教育経営学科1年生に提示した。1年生の中には、この「教育心理コース」での学びを楽しみに入学してきた学生もおり、「教育心理コース」の取り組みが待たれていた雰囲気を感じ取れた。(表2)

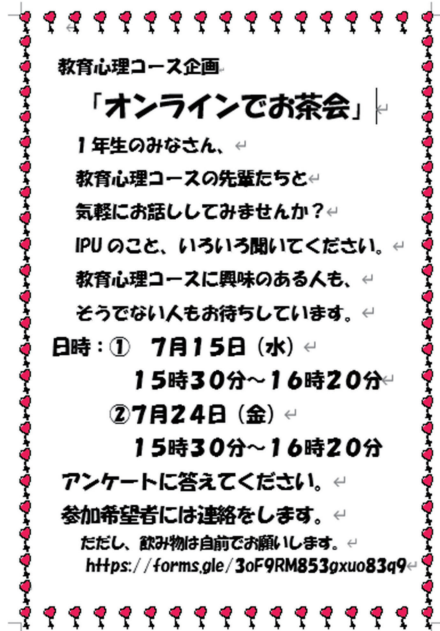


図1 「オンラインでお茶会」のちらし

あらかじめ記入してあった自己紹介のスプレッドシートをGoogle Classroomに表示した。実施前にお互いの自己紹介を見ることができ、興味深かったようである。しかし、顔出しの強要はできないので、2,3年生の中には、1年生と顔合わせしなかったという感想を持った者もあった。最後に4,5人の人数に分かれて談話できたことも好評であった。(表2)

2. 夏期講座

目的 (1) アンガーマネジメントへの理解を深め、怒りを上手に表現する方法について考察する。(2) 傾聴スキルへの理解を深め、スキル獲得への一助とする。

方法 Google Meetを使用し、オンライン授業を実施した。

参加者 1日目19名 2日目15名 3日目15名

期日 2020年8月25日(火) 26日(水) 27日(木)
すべて10時~12時

プログラム

(1) アンガーマネジメント

①この1,2週間で怒りをおぼえたこと②怒りのボ

キャプラリーゲーム③怒ることのメリット・デメリット④コーピングマントラ(落ち着く言葉)を考えよう⑤「許せないことの境界線」(グループワーク)

(2) 傾聴スキルトレーニング

①オンラインでロールプレイ(Aさんの悩みに対応)

②プチ悩み相談(話し手・聴き手・観察者の役割を経験)

③質問技法(Open QuestionとClosed Question)

学生の感想については、表3-1,2,3に挙げている。「アンガーマネジメント・傾聴スキル」の授業については、図2,3,4,5にあるように満足度・理解度ともに80%~100%と高くなっている。また5,6人のグループワークで交流を深めることもできた。

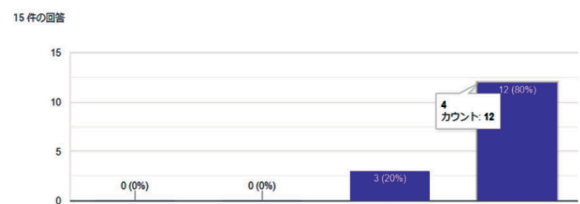


図2 アンガーマネジメントの授業について(大変満足4~不満足1)

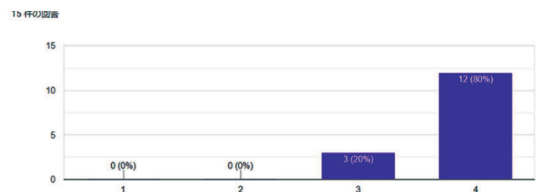


図3 アンガーマネジメントの授業について(よく理解できた4~理解できなかった1)

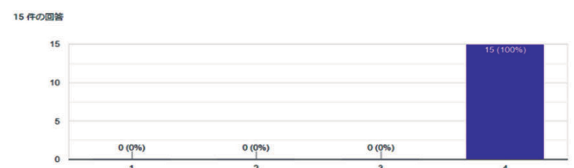


図4 傾聴スキルの授業について(大変満足4~不満足1)

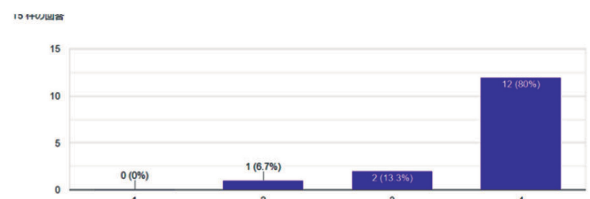


図5 傾聴スキルの授業について(よく理解できた4~理解できなかった1)

3. オンライン読書会

目的 「心理」や「教育」についての本をお互いに紹介し、意見や感想を交換することで、読書の幅を広げる。

方法 お薦めの一冊について、Spread Seatに、書名・著者・発行元・要約・感想を記入させて、あらかじめ閲覧可能にしておく（表1）。読書会当日には、画面共有をして、記入した学生の説明を受け、他の学生は質問したり、感想を述べたりした。

参加者 1日目19名 2日目15名 3日目15名

期日 2020年9月16日（水）9：00～11：00

表1 参加者から紹介された作品

図書名	著者
ディズニーサービスの精神が教えてくれたこと	鎌田 洋
人生が面白くなる学びのわざ	齋藤 孝
はじめての心理学	ゆうきゆう
アーモンド	ゾン・ウオンピョン
人一倍敏感な子	エイレン・Nアロン
小学教育の事	福沢 諭吉
10代のための心がラクになる本	長沼 睦夫
ケーキの切れない非行少年たち	宮口 幸治
幸せになる勇気 自己啓発の源流「アドラー」の教えII	岸見 一郎 古賀 史健
新世界	長野まゆみ

さまざまな本が紹介された。意見交換することで、より作品への愛着が深まったようである。「授業では習わなかった知識も身に付けて実践することもできると思うから、今後の学習に本をしっかり活用していきたいと思う」という前向きな感想も寄せられ、「過去に同じ本を読んでいたとしても、その人によって考え方が違うということが分かりました」のような新たな気づきを示す感想もあった。（表4）

V. まとめと考察

今年度実施された教育心理コースの取り組みを振り返った。昨年度同様に夏期合宿を実施し、講師を招いて学習を深めていく計画であったが、今年度は新型コロナウイルスの影響で、オンラインでの学習となった。

初めに実施した「オンラインでお茶会」では、コロ

ナ禍のもと、孤独感や不安を感じていた1年生への支援ができた。「オンラインお茶会に参加して、とても良い時間を過ごすことが出来た」という感想にも1年生の気持ちが表れている。また、昨年度「ピア・サポート」を学んだ2,3年生にとっては、1年生の話を傾聴し、ピアサポーターとしての実践の場になった。特に先輩2人に1年生2人の組み合わせでMeetを活用したことが好評であった。（表2）

夏期講座の学習についても、Google ClassroomのMeet機能を使用することで、小グループでの活動ができ、学生は深い学びを得ることができた。対面であれば、付箋を貼ったり、模造紙に書き込んだりするワークも、Google JamboardやSpread Seatを活用した。学生の感想（表5）にも「スプレッドシートを使ったワークは複製など出来るので良かった」「画面共有して、他のグループの話し合いの結果を見ることができたのは良かった」などが見受けられた。一方で、「顔が見えない状態だったので、今度は顔が見える状態でお話させていただきたいと思いました」など、画面に顔を映さないアイコンでの参加を寂しく思う感想もあった。今後彼らが、教員として活躍する際には、オンライン授業の導入が必須である。こうした経験を積んでおくことが大切であろう。

今回は、オンラインでの実践の成果と課題を考えることが目的であった。ここで、傾聴スキルトレーニングでの「実際の相談する人の中で顔を出したくないという人もいると思うので、今回はそういう機会のことを考えながら体験することができた」「顔が見えない状態ではきちんと傾聴しても伝わっていないのではないかと不安になり質問など多く話してしまうことが多々あった。対面ならもう少し伝わるのに、と思いながらグループワークをしていた」（表3-2）という感想に注目したい。

中川・杉原（2019）は、「オンラインカウンセリングは、さまざまな理由から従来の対面のカウンセリングによる支援が届かない学生に対して、支援につながる道をあらたに開く1つの方法であり、また、従来の対面のカウンセリングだけでは応えきれない支援へのニーズを補う方法である」としている。

新型コロナウイルスの感染が収束したとしても、今後、テレビ通話・音声通話など、さまざまな形態の遠隔心理支援が普及していくであろう。今回のような経験が、彼らのスキルの伸長に役立ち、教師として子どもたちの心理支援に役立てば幸いである。

オンラインでの授業が、彼らの教師としての可能性

を広げることについて、今後も実践研究を続けたい。今回図らずも「遠隔心理支援」をキーワードに、新たな方向性を見出せたと感じている。

引用文献

- 市橋直哉 (1999). 学校における心理教育的アプローチの構造：形式的側面を中心にして, 東京大学大学院教育学研究科紀要, 39, 245-253
- 石隈利紀 (2012). みんなの援助が一人の援助：どのように一次的援助サービスが二次的援助サービス・三次的援助サービスの土台となるか, 学校心理学研究, 12, 73-82
- 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 (2020). 令和元年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

文部科学省2020年11月13日. https://www.mext.go.jp/content/20201015-mext_jidou02-100002753_01.pdf (2021年2月17日閲覧)

- 中川純子・杉原保史 (2019). 学生相談におけるオンラインカウンセリングの可能性：ビデオ通話・音声通話・テキストによる心理相談の試験的導入, 京大大学学生総合支援センター紀要48, 19-32
- 太田列子 (2006). 大学生に対する心理教育的アプローチ (2)：教職課程科目を効果的に学習するための心理教育プログラムの開発, 梅光学院大学・女子短期大学部論集39, 11-20
- 杉本希映・青山郁子・飯田順子・遠藤寛子 (2017). 小学校・中学校・高校で受けてきた心理教育の頻度および有効度の認知：いじめに関する心理教育の影響に注目して, カウンセリング研究50, 143-151

表2 オンラインでお茶会の感想

【オンラインでお茶会に参加して】

- 和やかな雰囲気です、とても楽しかったです。顔が見えない状態だったので、今度は顔が見える状態でお話させていただきたいなと思いました。(1年生)
- オンラインお茶会に参加して、とても良い時間を過ごすことが出来たと感じました。先輩方と話をすることもでき、コースについて理解することが出来たので良かったです。(1年生)
- オンラインだったので、一年生と実際に会ってお話したいなと感じました！なので、やっぱり目を見て話したかったので、画面は切らずに顔は出したほうが良いなと感じました。司会ももっと練習して、しっかりしたものにしたかったのでチャンスがあればもう一度やりたいです!! (2年生)
- とても充実した会だったと思います。個人的にあの小部屋のmeetで結構話が弾んだのでとてもいいアイデアだったと思いました。(3年生)

表3-1 夏期講座(アンガーマネジメント)の感想

【アンガーマネジメントの授業について】

- 今回の授業で、悪いと思っていた怒りについての認識を変えることができたので、とても良い時間を過ごすことが出来ました。良い教師になるために、怒りをコントロールできるように、しっかりと学んでいきたいです。
- オンラインということもあり、ネット環境に不安が少しあったが、非常に有意義な時間を過ごすことができたと思う。グループでの活動も先輩方と楽しく行うことができたので、参加してよかったなと思った。
- とても面白い講義でした。怒りに関しての他の人の意見がどんなものなのか、どんなことでイラっとするのかを知ることができました。
- また、自分だったらこのくらいの怒りかなとかなぜそのことで怒ったのかという理由を聞いて納得したりすることができ、面白かったし楽しかったです。
- 他者の感じる怒りの基準と自分の基準の違いが分かって面白かった。

表3-2 夏期講座（傾聴スキルトレーニング）の感想

【傾聴スキルトレーニングの授業について】

- グループで傾聴のロールプレイができてよかったです。お互いの良かったところや難しかったことを話して、とても有意義な時間を過ごすことができました。
- 今回の授業では、傾聴スキルについての講義を受けることが出来てよかったです。このスキルは、一回講義を受けただけでは得られるスキルではないということが分かりました。このようなことも踏まえて、経験を積めるようにしていきたいです。
- 対面と同じようにオンラインでやってもうまくいかない実践があったりして面白かったです。
- 傾聴について、改めて大切なポイントを振り返ることができ、より理解を深めることができた。1年生の中で「授業についていけないか心配」との声があったので、今後はオンラインでも安心して参加してもらえるような雰囲気を作っていくよう努めたい。
- 誰かの話を、悩みを聞くことは一見簡単そうに見えたが、実際行ってみると難しく、奥が深いものだと分かった。
- 具体的なロールプレイングができたので理解が深まりました。少人数で詳しくできる機会はなかなか無いのですごく勉強になりました。ありがとうございました。
- すごく自分のためになる授業だったと思う。人の話をどのように聴くのか、どんな質問を投げかけるのかなどとても勉強になったし、とても面白かった。
- 実際の相談する人の中で顔を出したくないという人もいると思うので、今回はそういう機会のことを考えながら体験することができた。
- 顔が見えない状態ではきちんと傾聴しても伝わっていないのではないかと不安になり質問など多く話してしまうことが多々あった。対面ならもう少し伝わるのに、と思いながらグループワークをしていた。

表3-3 夏期講座全体を通しての感想

【講座全体を通じて】

- 3日間とも2時間の授業があつという間でとても充実していました。アンガーマネジメントや傾聴など、実際の現場で役に立つことを学べてよかったです。
- 三日間の授業を受けて、教師になるための知識や心構えについて改めて考えることが出来ました。この集中講義で学んだことを踏まえて、これからの大学での講義をより良いものにしていきたいです。
- 三日間とても良い講義をありがとうございました。また、色んな人の意見を聞くことで新たな発見が生まれたのもとてもいい勉強になりました。
- 対面で出来ることが楽しいと思うが、オンラインという初めての試みの中で、一年生とも交流できたり、授業を通して他の人の様子を知ることができたり良かった。

表4 オンライン読書会の感想

【オンライン読書会について】

- うまく説明できなかつた。カメラも使って、本の紹介ができたならもっと良くなったと思う。また、皆さんがおすすめしている本はどれも面白そうだし、本の内容や感想などを知ることができてよかった。
- 自分の読んだ本を感じたまま伝えることが少し難しく感じたが、誰かと考えを共有することは自分の中で新たな発見も沢山あるので、非常にいい経験だと思った。
- 紹介された本はどれも読んだことがなかったので、勉強の合間に読んでみたいと思った。
- 心理学の本に対して難しそうだというイメージを持っていたが、今回紹介されていた本はどれも読みやすそうだった。また、紹介を聞いて、興味を持ったので、一度読んでみたいと思った。
- 心理に関する本を読むことで、授業の復習ができることもあると思う。また、授業では習わなかつた知識も身に付けて実践することもできると思うから、今後の学習に本をしっかり活用していきたいと思う。
- オンライン読書会で思ったことは、過去に同じ本を読んでいたとしても、その人によって考え方などが違うということが分かりました。
- 知っていた心理学やまだ知らない心理学の分野があり、とても楽しい一日だった。今日、皆が紹介してくれた本は、今後、先生になるであろう私にとって、必要なことを教えてくれると思うので是非読みたいと思う。そして、今日みたいに紹介してくれた人たちとその本について語り合えたら良いなと思う。

表5 オンライン授業についての感想

【オンライン授業について】

- オンラインならではの良さがあった楽しかったです。
- スプレッドシートを使ったワークは複製など出来るので良かった。対面でないので話し合いが難しい場面があった。
- 画面共有して、他のグループの話し合いの結果を見ることができたのは良かったと思います。
- 昨年度の対面での授業と比較してこちらの方が良かった。短時間で実践する内容が明確にわかり理解しやすかった。
- 対面でやるよりスプレッドシートを活用したほうが見やすく分かりやすかった。ただ、やはりオンラインだとグループワークでの話しづらさはあった。
- 顔が見えない状態だったので、今度は顔が見える状態でお話させていただきたいなと思いました。
- 画面は切らずに顔は出したほうが良いなと感じました。
- 結構、色々な人に話を聞いてみると実家に帰省している人が多いみたいなので、かえってオンライン授業は受けやすい環境だと思います。